

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム あったかいごひといち

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390800126		
法人名	株式会社 三協メディケア		
事業所名	グループホーム あったかいごひといち		
所在地	〒028-0871 岩手県遠野市中央通り5番25号		
自己評価作成日	令和5年10月5日	評価結果市町村受理日	令和5年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは遠野市の街中にある商店街の一角に位置し、人々が行き交う賑やかな環境にあります。市内で行われるイベントやお祭りが開催される際は気軽に観覧することができます。日頃の行事としては四季が感じられるように、その時々で桜や新緑、紅葉ドライブに出かけたり、お客様と一緒にごはんやおやつ作りなどを行っております。また、事業所理念として「医療・福祉を通じて人々の健康とやすらぎを願うと共に、全社員の物心両面での幸せを追及する」を掲げており、利用者をお客様と位置づけ、顧客満足度を追及し、皆様が安心・安全な暮らしができるように職員一同取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

商店街の中心部にあり、既存の建物を改築して開業した17年目の事業所である。商店街では各種イベントが催され、利用者は気軽に鑑賞できる環境にある。季節の花や紅葉の見物にドライブを兼ねて外出したり、保育所の園児の訪問、民謡保存会、小学生のボランティアなどが来所し、また商店街との触れ合いも盛んに行われている。毎月発行の「ひといち瓦版」に利用者一人一人の様子を記載するとともに、利用者の日常の生活を写真入りで紹介し、家族からは好評を得ている。事業所は理念の「一日安全で楽しい生活が送れるように」を軸に独自で作成したアセスメントシートを活かし、利用者一人一人をより細やかに把握し、ケアプランに活かしながら取り組んでいる。今後も期待される事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年11月21日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あったかいごひといち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念「医療・福祉を通じて人々の健康と安らぎを願うと共に、全社員の物心両面での幸せを追求する。」を基に、ホームで独自の理念を掲げ、日ごろのケアの考え方の土台として実践している。またグループホーム独自の理念「相手を思いやる気持ちを持ち、全員が一日安全で楽しい生活を送れるように笑顔でサービスをする」を掲げケア目標の指針としている。	「相手を思いやる気持ちを持ち、全員が一日安全で楽しい生活が遅れるように笑顔でサービスをする」との理念は、全職員の共通認識のもとで作成されたものである。玄関等に掲載し、朝礼で唱和して確認し合っている。職員は半年毎に振り返りを行いながら、日々のケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの感染状況を見ながら、地域の行事や商店街のお祭りのボランティアとして参加したりお手伝いをしている。	町内会に加入し、コロナ感染状況を見ながら、地域のボランティアとして参加し、地域との交流も少しずつ再開している。近くの子どもの園の園児や民謡保存会の来所し、「遠野祭り」では門付けにきた獅子踊りを玄関先で見たり、また、自発的にボランティアを希望して来所した小学生との触れ合いもあり、利用者は楽しい時間を過ごしている。また近所の方が通りすがりに声をかけてくれる等、地域と繋がりをもちながら生活をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染予防の観点から地域の方との関わりは少ないが、市で開催している認知症家族の集いなどには参加し傾聴したり助言をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度地域の方や利用者家族などに会議に参加して頂き、施設の取り組みやサービス状況の報告、意見交換を行っている。また、その内容を職員間で回覧周知しサービス向上に努めている。また前年は運営推進会議を活用した外部評価の自己評価の取り組みを行った。	4月から対面で2か月毎に開催している。利用者家族、民生委員、町内会の会長、地域包括支援センターの方々が参加し、事業所の取り組みや利用者の状況を動画で報告し、意見等をいただいている。火災のシーズンには消防署の方、防犯のシーズンには警察署の方にも出席していただいている。8月には火災訓練の様子を見てもらい、意見等をサービスの向上に活かしている。職員には回覧で会議内容を周知している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政の届け出や加算要件の相談や、コロナワクチン接種やマイナンバーカード出張作成など市町村で取り扱う内容に積極的に協力している。また、運営推進会議を通して施設や市町村で起こっている状況について情報交換をしている。	運営推進会議に市の介護保険係(担当課)が地域包括支援センターの代わりに参加することもあり、様々な意見や貴重な情報を得たり、近隣の市町村の様子も聞いている。今年度は市が行っている「丸ごと相談員」の助力で、新しいボランティアの訪問に結びついたりしている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あったかいごひといち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束に関する指針の読み合わせや3カ月に1度の会議の実施、年に2回の内部研修を行い、身体拘束についての知識を学び理解を深めている。	年4回「身体拘束廃止委員会」を開催し、内部研修は職員の共通認識を高める目的で年2回実施し、知識を学び理解を深めている。新規採用者や派遣職員にも研修を実施し、研修を受けた感想を聞くなど、効果等についても管理者が記録に残している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束とともに年に2回内部研修を実施し、虐待予防についての知識を深め、実際の虐待のニュースや事例検討などを通して内容を話し合い、どのようなことが虐待にあたるかということや、尊厳を尊重することを学び実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修の中で「権利擁護」について勉強する機会を持ち、必要時に活用できるよう知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、時間をかけ重要事項説明書・契約書を示しながら対面で説明を行い、わからないところがないか確認しながら契約を進めている。制度改正時も、その都度説明・同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時などを利用し、定期的に意見や要望を聞くように努めている。また、施設の取り組みについての家族アンケートを実施し、内容や意見を職員間で周知しサービスに反映するようにしている。	面会や受診の同行で来所した際に意見や要望を伺うようにしている。事業所発行の「あったかいごひ版」に利用者の様子を写真で掲載し、個々の利用者の様子を記入する欄を設け毎月お知らせしている。家族からは、感謝の気持ちで受け止められている。また、施設の取り組みについて家族アンケートを実施し、いただいた意見や要望は、職員間に周知してそのモチベーションに繋げている。	

事業所名 : グループホーム あったかいごひといち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回会議を開催し、運営状況を報告したり、会議で出た提案や意見をすぐにまたは法人内の運営会議で報告協議し、より良い施設運営になるように努めている。	月1回の会議や、個々の職員との日頃のコミュニケーションを通じ、職員意見を把握に努めている。職員の提案で休憩室にエアコンを付けたり、倉庫を直している。半年に1度個人面談を実施すると共に、人事考課を行い、職員一人一人の努力や実績を評価して給与や賞与に反映させ、職員の満足度を高めていくようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1度人事考課を行っており、個々の努力や実績を評価して給与や賞与に反映させている。また職員の個人の面談を行い、それぞれの勤務の要望や意向を伝える機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2か月に1度職員が講師になり内部研修を行っている。また、法人内外の研修にも参加を促がし、それぞれがスキルアップできるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会の回数は少ないが、地域密着型サービス協会の花巻・遠野ブロックなど外部の研修などを通して情報交換や交流を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期のアセスメントにて人柄や生活歴を把握し、直接本人から要望などを聞き取れる場合は、内容をケアに反映できるように、聞き取れない場合でもその人の環境や状況を理解し、安心してサービスを利用できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用する段階で利用者を支えている家族の意見や気持ちを聞き取り、やって欲しいことや継続したいことなど家族の要望をケアに反映させたり、本人との関係が途切れないように努めている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あったかいごひといち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用する最初の段階では、何が本人や家族にとって良いか意向を確認し、不安なく今までの暮らしが継続して行われるような支援になるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の残存能力に合わせて食事作りや掃除、洗濯干しやお皿拭きなど日常生活の中でできる所は一緒に行い、できない所をサポートしながら支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子を細かく伝え、家族の意向や要望などを聞き日頃のケアに取り入れている。また、面会や外出、受診の付きそいなど本人を支えあう立場として関わりをもてるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染予防に留意しながら面会や外出ができるように支援したり、お盆や家族の会食などライフイベントへの参加ができるように、柔軟な対応を行っている。	家族とは感染予防に努めながら、面会や外食が出来るように支援している。時々利用者の方の遊びにきたり、デイサービスに来ている人が知り合いだったり、出来る範囲の中での継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性や特徴を把握し、一人ひとりが自分の居場所があり、適度な距離感をもって過ごしてもらえるよう、環境整備を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設入居のため退去の際、サービス終了後も必要時は情報提供や相談の支援を行っている。また、何かあればいつでも相談を受けることを伝えている。		

事業所名 : グループホーム あったかいごひといち

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にあセスメントを行い、本人の希望や意向の把握に努めている。困難な場合も、日頃の様子から思いを汲み取ったり、生活歴や家族からの情報をもとに望んでいる生活が送れるように支援をしている。	半年毎に事業所独自に作成しているアセスメントシートを使用して本人の要望や意向の把握に努め、ケアに活かしている。また、日々の生活(食事の中での会話等)の中で聞いた情報は、具体的に会話形式などで記録し、月1回の全職員参加のグループホーム会議で話し合い、職員間で共有している。意向や要望を伝える事が可能な人は5名で、4名はアセスメント情報や仕草等で判断し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や今までの暮らしの様子などを本人や家族から伺い把握するように努めている。入居後も日常の会話などから得た情報をアセスメントに記入し、情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人や家族から聞き取りをし、意向に沿った24時間シートを作成し活用している。また、月1回モニタリングを行い、現状のニーズや能力を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で思いや意見を聞きながら、月1回のケアカンファレンス時にモニタリングを行い、新たな課題や現状に即した計画となっているか検討している。また、必要時には家族にもプラン実行のため協力して頂いている。	モニタリングを行い利用者の月毎の様子を特記事項に記入し、月1回のケアカンファレンスで話し合い、現状に即した計画になっているか検討している。アセスメントシートにより、利用者の経過を把握できる事から、ケアプランは3か月毎の見直しとし、計画作成担当者が作成している。プランは本人の承諾を得てから家族に送付し、確認と承認を得ている。介護計画は全職員回覧し、内容の確認を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録や個別記録に日々の様子やケアの実践、気づきや変化などを記入している。職員はその情報を共有・把握し、ケアの実践やプランの策定に活かしている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あったかいごひといち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況・希望に合わせて受診介助や散髪サービスの利用などを都度行っている。また外出で遅くなるような時も、希望に沿って柔軟に対応するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	遠野市が主催している「地域丸ごと相談員」によるボランティアマーケティング事業へ参加し訪問美容を利用することとなった。また近所の薬局のサービスを利用し安全に薬が内服できるように支援を受けている。必要に応じて家族の協力を得られるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医に受診している。家族対応で受診する場合は、通院連絡票やバイタル表をお渡しし、日々の様子がや変化がわかるようにしている。家族の要望があれば受診に付き添ったり、代行できる体制となっている。	本人及び家族が希望するかかりつけ医を受診している。5名が協力医を受診し、4名は他の医療機関を利用している。受診は家族対応とし、通院時は「通院連絡票」や「バイタル表」を託し、結果を報告していただいている。家族が同行出来ない時には、職員が代行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は利用しておらず、職場内に看護師は不在である。入居の際、本人や家族には説明した承いただいている。急変時などは管理者や計画作成者を中心に病院や薬局などに指示を仰ぎ、即対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には入院先へADLや施設での暮らしの様子などの情報を書面にて提供している。入院中も病院との情報交換を定期的に行い、利用者の状況把握に努めている。退院時にはカンファレンスを行い、病院と施設が情報交換や相談ができる環境が整っている。		

事業所名 : グループホーム あったかいごひといち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人にはアセスメント時に今後どのように暮らしたいかの聞き取りを行っている。また家族には入居時、また定期的に終末期の意向確認を行っている。医療行為をおこなっていないことは本人や家族へ伝えており、必要時はスムーズに医療機関や他施設を利用できるように支援している。	現在は看取りを実施していないので、看取り指針は作成していない。入居時に、終末期や重度化した場合の説明を行い、確認書を提出していただいている。また2年以内に再度意向を確認している。看取りの手前まで支援に努め、必要になった時点で、家族の意向に添いながら医療機関や他施設が利用できるよう支援している。医療連携が可能になったなら取り組む必要があるとの認識を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルをもとに、フローチャートはいつでも確認できるように掲示している。また年に1回AEDの研修を含めた救急法の研修を行っており、全職員が対応・実践できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを作成しており、日中、夜間想定年2回の避難訓練を実施している。また運営推進会議を利用して避難訓練を見学してもらったり、地域の協力体制を築いている。自然災害や感染予防のBCPも作成しており緊急時に備えている。	災害時マニュアルを作成し、夜間を想定を含む年2回の避難訓練を実施している。運営推進会議を利用し、訓練の様子を見学してもらい、感想や気づいたこと等を伺い次に活かしている。夜間を想定し職1人での対応をシュレーションしたり、利用者の居室が2階である事から車椅子対応の誘導や水害時の避難として垂直避難について検討している。また地域との協力体制も築き、有事の際には前後左右の方々の協力を得るようにしている。	運営推進会議に避難の様子を見学して頂いているので、できれば委員の方々にも協力を頂ける事も必要と考える。また、近隣の方々(前後左右に居住している)に有事の際の協力について意思確認や協力内容等の確認を取る必要。それにより、利用者の避難等がスムーズに行くことを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	アセスメントにて人格や生活歴などを把握し、月1回ケアの振り返りを行っている。また定期的に接遇や虐待についての研修を行い、言葉遣いや対応の仕方を勉強する機会を設けている。	事業所独自の24時間シート(アセスメント)を作成して一人一人を細かくチェックし、それを基に暮らしを支援している。希望を聞いたり、選択肢を設けて意思を確認したりを日常的に行っている。2ヵ月毎の内部研修計画に基づき、職員が講師になり、接遇や虐待の研修を通じ、言葉遣いや対応の仕方などで、プライバシーを損ねる事のないよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを聞き取りし、24時間シートを作成しそれを基に暮らしを支援している。またその都度どうしたいかの希望を聞いたり、選択肢を作り選択する機会を設けている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あったかいごひといち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のタイムスケジュールを設けてはいるが強制はせず、利用者が望んでいることに応えられるように柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類など本人が選んだり、着替え時など好みを聞きながら対応している。身だしなみを整える備品を置いたり、個人で必要な物は準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり、味付けをしたり、食後の片づけを一緒に行ったりして食事作りに参加し楽しい食事が創出されるように取り組んでいる。献立も季節の食材を取り入れたり、希望があればすぐに取り入れ柔軟に対応している。	朝、夕の献立は1か月毎に職員が作っている。昼のおかずは、デイサービスの厨房で作り、ご飯や味噌汁は職員が作っている。季節の食材を取り入れたり、希望があれば献立に入れる等、柔軟に対応している。季節に合わせた行事食が好まれ、おやつ作りや調理にも割烹着を着て一緒に参加し、味見や食事の片づけ、茶碗拭きなど、職員と一緒に取り組み、楽しい食事風景が展開されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を毎日チェックし把握している。摂取量が少ない時は温度調節や本人が好むものを取り入れ、摂取量増加の工夫をしている。また利用者の体重の増減についても把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアや歯磨きを行っている。職員が見守り、不十分な時は介助を行い清潔保持に努めている。また食事の前に口腔体操を取り入れ、誤嚥やむせ込み予防を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンの把握に努め、トイレへの声掛けや誘導を行っている。本人の意向に沿い、なるべくトイレでの排泄ができるように支援をしている。	一人一人の排泄のパターンを把握し、自然に近い形を継続し、トイレでの排泄を基本として、利用者全員トイレでの排泄が出来るように支援している。トイレが遠い部屋の利用者3名は、転倒不安も考え、家族の了承のもと夜のみポータブルを使用している。在宅の時にはリハビリパンツであった方が、布パンツへと改善された例もある。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あったかいごひといち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日軽体操を行ったり、朝食に乳製品を取り入れたり、食事や水分量の把握を行っている。また個々の排便間隔や形状を観察し、必要時は適切な下剤を使用して排便を促がしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日はあるが、本人の希望や体調に合わせて柔軟に対応している。また入浴剤などを利用して温泉気分や季節が感じられる入浴も提供している。	月曜日から土曜日の午前中に入浴としている。入浴の順番や曜日は決まっているが、利用者の希望に沿った入浴として柔軟に対応している。同性介助を希望される方には同性の介助とするなど、利用者の希望に応じた対応となっている。職員と利用者が1対1でゆっくりとコミュニケーションをとれる場となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、寝具や衣類を整えたり、その日の体調や気分をみながら利用者それぞれの就寝時間に合わせて休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容はカルテに挟んでありすぐに確認できるようになっていたり、新しく内服する際は情報共有を行い、変化を記録するように努めている。服薬支援の際はダブルチェックを行い、誤薬などの事故のないように努め、服薬全般についての相談は薬剤師の協力を得ながら適切な内服や支援できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントや日常の関りから利用者の得意なことや好きな事を見つけ、家事全般(食材を切る、洗濯物をたたむなど)や裁縫、歌をうたうなど日常に取り入れ楽しく生活できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お祭りやイベントに戸外へ出かけたり、季節ごとにドライブへ出かけたりしている。本人や家族の希望があればその都度外出できるように準備や支援を行っている。	本人や家族の希望に添いながら、外出ができるように準備や支援をしている。お祭りのイベントで駅前に見に行ったり、事業所の玄関先で、獅子踊りを見たり、季節毎のドライブ(夏は上郷の蓮、風の丘のサツキや紅葉等)で気分転換を図っている。	

事業所名 : グループホーム あったかいごひといち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者がお金の自己管理は難しいため、欲しいものがあるときは利用者と家族に相談して立て替え払いで対応している。外出の際は利用者に買い物のお会計を行ってもらったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけることは可能となっているし、携帯電話を持っている利用者は定期的に連絡をとっている。家族からのプレゼントが届いた際には、お礼の手紙を作成している。また、年賀状を利用者と作成し送ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度を確認し、空調管理を行い快適な環境を提供できるように努めている。ホールに季節の花や作品を飾ったりして季節の移り変わりを感じて頂けるように努めている。	ホールにはテーブルが3台設置され、壁際にはソファが置かれ、利用者はそれぞれに好きな場所に腰掛けられるようにセッティングされている。壁には季節を感じさせる作品が飾られている。利用者がお世話している花もあり、優しい雰囲気が醸し出されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性を把握し、気が合う、合わない人に考慮した座席の配置に努めている。また対人関係で問題が起こった際は間に入り、それぞれの思いに寄り添いコミュニケーションをサポートし過ごしてもらえるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や大切にしているもの、愛用しているものを自室へ持ち込んだり飾ったりしている。また洗濯物干しを置き、自分の衣類を部屋に干したり、自由に服などを選べるようにしている。	ベット、クローゼット、エアコンが備え付けられ、衣装ケース、椅子、テレビ等が持ち込まれている。入口には、利用者の顔写真と周りには花の貼絵が飾られた名札があり、年の初めに書いた絵馬もある。居室には、家族写真やカレンダーが飾られ、運動会でいただいた金メダル(紙製)が吊されている。自分の洗濯物を居室に干したり畳むなど、自己管理をして居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や自室に張り紙をし、よりわかりやすく環境を整えたり、個々の能力に合わせてできることを継続してできるように支援したりしている。またできなくなったりわからなくなっても不安なく暮らしていけるように声掛けや支援している。		